

## 【概要】

# 住宅ローン利用者の実態調査

### 【住宅ローン利用予定者調査(2022年4月調査)】

## I 調査の概要

今後5年以内に住宅を取得する計画があり、かつ、住宅ローンを利用する予定がある方を対象とし、希望する住宅ローンの金利タイプ、住宅取得に向けた意識や行動などについて調査を実施し、その結果をとりまとめたものです。

(参考) 調査実施時期：2022年4月28日～5月6日、回答数：1,500件

## II 調査結果の主なポイント

〈〉は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

### 1 利用予定の金利タイプでは、「変動型」が減少、「固定期間選択型」が増加し、「全期間固定型」は横ばい 〈p.2〉

- ・「変動型」：37.6% (2021年10月調査40.1%)
- ・「固定期間選択型」：34.7% (同32.1%)
- ・「全期間固定型」：27.7% (同27.7%)

### 2 今後1年間の住宅ローン金利見通しについて「現状よりも上昇する」が4割を超え、「ほとんど変わらない」は減少 〈p.3〉

〈今後1年間の住宅ローン金利見通しについて(全体)〉

- ・「現状よりも上昇する」：44.4% (2021年10月調査30.5%)
- ・「ほとんど変わらない」：27.6% (同40.9%)
- ・「現状よりも低下する」：8.5% (同9.1%)
- ・「見当がつかない」：19.5% (同19.5%)

### 3 住宅の買い時意識では、前回よりも「買い時だと思う」が減少し、「買い時だと思わない」、「分からない」が増加 〈p.5、p.6〉

〈今(今後1年程度)の住宅の買い時意識〉

- ・「分からない」：41.8% (2021年10月調査40.5%)
- ・「買い時だと思う」：27.1% (同34.5%)
- ・「買い時だと思わない」：31.1% (同24.9%)

〈買い時だと思ふ理由〉

- ・「住宅ローン金利が低水準だから」：69.3% (2021年10月調査74.5%)
- ・「税制のメリットが大きいから」：31.4% (同38.0%)
- ・「住宅価格が安くなったから」：19.4% (同25.5%)
- ・「住宅取得促進策が実施されているから」：16.2% (同22.0%)
- ・「金融緩和政策が継続しているから」：15.7% (同15.1%)
- ・「その他」：4.4% (同2.3%)